

協働学習で行うニュース制作を通してメディア・リテラシーを培う

一切り取られる現実、メディアを批判的に読む力とは

大阪市立東住吉中学校 教諭 山本 雄大

キーワード：中学校、国語、タブレットPC、ムービーメーカー、協働学習

実践の概要

中学校3年生を対象に、三省堂教科書「現代の国語3」の「情報社会を生きる—メディア・リテラシー—」という単元において、タブレットPCの動画編集ソフト、ムービーメーカーなどを活用して、「富士山の世界文化遺産登録後の山開き」のニュース制作を行った。

1. 目的・目標

技術の革新に伴い、情報社会の進展が加速する中、メディア・リテラシーを身につける必要性が高まっている。しかし、教科書本文にある「メディアが送り出す情報は、現実そのものではなく、送り手が選び取ったものの見方の一つにすぎない」（菅谷、2016、P133）ということを実感するには、本文を読むだけでは難しいと思われる。そのため、今までは、ニュースや新聞を比較するなどの授業を実践してきたが、メディアの受け手としてだけでなく、送り手の側に立ち、仲間と協力して何かを作る授業を行いたいと考えていた。そんなときに、大阪市では、2016年度から全校園にタブレットPCが導入され、メディアの送り手の立場になり、ニュースを制作することが可能になった。タブレットPCを活用し、ニュース制作を行うことで、メディアを批判的に読む力をより効果的に培うとともに、協働学習の活性化を目的とし、今回の授業を試みることにした。

2. 実践内容

2.1 映像制作を体験

生徒がニュースキャスターとなり、ムービーメーカーで作成した動画に合わせて、ニュースを発表することにした。原稿の制作には、教科書に記載されている新聞や市の図書館に保存されている新聞を用いた。制作に入る前に、どのようにニュースを作っていくのかをイメージ

させるために、授業者が同じソフトで自作した動画を使って、実演した。そして、各クラスに6班ある6～7名の班を3～4名のグループに分け、活動していくことにした。各グループにタブレットPCを1～2台渡し、ムービーメーカーの操作方法を教え、制作が始まった。

2.2 資料をAとBに分ける

ただニュースを作っても授業者の意図するニュースができるとは限らない。そこで、ニュースを制作するための資料をAとBに分けることにした。資料Aは、富士山への登山客の増加を望ましいこととして伝えている新聞を集めたものである。資料Bは、富士山への登山客の増加によって生じた問題を伝えている新聞を集めたものである。そして、資料Aを1、3、5班、資料Bを2、4、6班に渡し、ニュース作りを行わせた。これにより、AとBのニュースの違いを明確にし、送り手の見方によって、事実が切り取られているということを実感することができた。

2.3 型を決めることで制作が簡単に

ニュースを作る、といきなり言われても、難しく感じる生徒が多いと思われる。そこで、発表の流れを、以下のように決めることで、どのグループも制作できるようにした。

1. 制作したニュースの工夫したところや注目してほしいところなどを伝える。(写真1)
2. 用意した民放のニュース番組のオープニング動画を流す。
3. キャスターが挨拶し、画像のスライドを動画にしたものに合わせて、富士山のニュースを伝える。
4. カメラ機能を使って撮影したインタビューの動画を流す。(写真2)
5. キャスターがインタビューを受けてニュースをまとめる。

もちろんこの型の通りでなくてもかまわない。キャスターだけでなく、コメンテーター役が出演しキャスターとやり取りしたり、インタビューの回数を増やしたり、エンドロールを作ったりするなど様々な工夫が見られた。



写真1 発表の様子



写真2 インタビューの映像

2.4 映像とライブの融合

ニュースを全て動画にすることも可能であったが、その場の状況や相手の様子に応じて話すということ意識し、人前に出て発表するという機会を大切にしたいので、キャスターが話すところは撮影しないことにした。また、見る側と伝える側にも緊張感を持たせ、キャスターの難しさもわかってもらうために、その場で話してもらうことにした。生徒は、本番の発表に向けて、映像と合うように何度も練習していた。

2.5 個別学習と協働学習

3、4人のグループにすることで、一人ひとりに役割があり、活動が活発化した。資料をもとに個人で考えたり、仲間と交流しながら制作したりしていた。(写真3) 動画作成では、教員が指導していない機能を活用したり、エクセルを用いて表を作ったり、ペイントで画像を編集したりする生徒もおり、積極的に臨んでいた。また、グループに分けることで、班の中でも発表することができ、発表の機会を増やすことができ、各グループで作ったニュースを再編集して、班の発表にするグループもあり、より完成度が高まった。



写真3 活動の様子

3. 成果

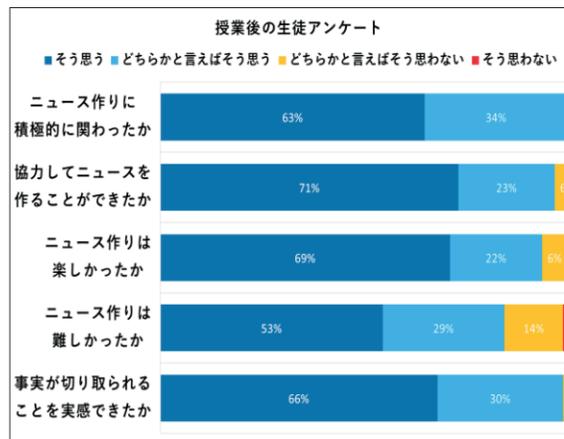


図1 授業後の生徒のアンケート

- ・ニュースや様々な情報の受け取り方が変わりました。うのみにせず、色々な角度から見るのが大切だと思いました。
- ・今回AとBに分かれてニュースを作成して見て、同じ出来事についての新聞なのに全然内容が違って驚いた。また、同じAとBの中でも細かく見ると、内容が違っていった。
- ・たった2分と少しのニュースを作るだけでも、すごく多くの時間がかかって、インタビューの映像を撮るのもとても大変でした。キャスターの話す速さに映像を合わせるの難しかったですが、ぴったり合わせられたときは、とても達成感がありました。
- ・他の班の発表を聞いて、自分の班にはなかった工夫があり、同じ内容でもテロップやインタビューの仕方が違っているなどの点が多くて、たくさんの発見がありました。
- ・友達と協力して作るということが、とても楽しかったです。

上記の生徒の感想から、意欲的に学習していた様子がわかる。また、生徒アンケート(図1)では、82%以上の生徒がニュース作りを難しく感じていたが、「ニュース作りに積極的に関わったか」で97%以上、「協力してニュースを作ることができたか」で94%以上、「ニュース作りは楽しかったか」で91%以上の肯定的な回答があり、難しい課題に対して、協働しながら解決を図っていたことがよくわかる。また、「事実が切り取られることを実感することができたか」では、96%以上の生徒が肯定的な回答をしており、とても多くの生徒が目的を達成していた。そして、AとBのニュースの違いだけでなく、同じAとBのグループの中での違いにも気付いている生徒も多くおり、想定を超える効果が見られた。このように、タブレットPCを活用したニュース制作は、「メディア・リテラシーの向上」や「協働学習の活性化」において、非常に有意義な授業であった。

4. 今後に向けて

今回の実践で、タブレットPCを活用することで今まで以上にメディア・リテラシーを高められることが明らかになった。今後もICT機器を活用し、生徒の力を伸ばせる授業作りに努めていきたい。

学習活動	生徒活動	評価の方法
AからBの順で制作したニュースの発表。	ニュースを制作するときの工夫も発表させる。	動画に合わせて発表できているか。聞き手を意識した工夫がされているか。
AとBのニュースに共通する出来事を捉える。	プリントにAとBのニュースに共通する出来事は何か書く。	要点を捉え、まとめられているか。
AとBのニュースの違いを捉える。	プリントに同じ出来事をどのように伝えているか、違いを書く。	相違点を捉え、まとめられているか。
ニュースを制作する基になった資料Aと資料Bを比較する。	AとBの違いは資料のどのようなところに表れているか、まとめる。	資料を比べて、読み取れているか。

【本単元の学習内容】

- 指導目標/タブレットPCを活用したニュース制作を通して、メディアを批判的に読む力を効果的に培うとともに、協働学習を活性化させる。
- 評価/資料を元にニュースを制作することができている。個人で考え、グループや班で協力して活動することができている。

【指導略案】

- 単元指導計画(全体時間10時間)
- (1)授業者による模範、ムービーメーカーの使い方の説明など(1時間)
- (2)役割分担、動画編集、原稿作成(2時間)
- (3)インタビュー録画、ニュース完成(3時間)
- (4)発表の練習と班の中で発表、最終調整(2時間)
- (5)クラスでの発表(1時間・本時)
- (6)まとめ(1時間)
- 本時の目標と展開 平成30年2月 生徒数39名
- 発表されたニュースを比較することで、メディアが伝える情報は、現実そのものではなく、送り手が選び取ったものの見方の一つに過ぎないことを実感させ、メディア・リテラシーを培う。